

**[成果情報名]**半促成長期どりアスパラガスにおけるBA液剤処理による収益性の向上

**[要約]**無加温、サイドビニール開放環境におけるBA液剤（ベンジルアミノプリン、商品名：ビーエー液剤）の効果は、散布後2週間で現れ、10日間持続する。10月下旬処理で端境期の11月生産及び春芽が増収する。9月下旬処理で10月と翌年の春芽が増収し、収益が向上する。

**[キーワード]**半促成長期どり栽培、BA

**[担当]**長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

**[連絡先]**（代表）0957-26-3330

**[区分]**野菜

**[分類]**指導

**[作成年度]**2013年度

---

**[背景・ねらい]**

半促成長期どりアスパラガスの収穫は2月から10月である。これまでに端境期生産のための収穫延長技術としてBA液剤散布と保温により11月に25kg/a収量があるが春芽の収量・品質が低下する報告がある。BA液剤の特徴は萌芽促進効果があり、若茎と同時に茎葉の2次芽も萌芽する。そこで、無加温、サイドビニール開放環境における11月の収量性並びに、秋冬期の茎葉繁茂による春芽増収効果を検討する。

**[成果の内容・特徴]**

1. 9月20日処理区、10月4日処理区、10月19日処理区ともBA液剤散布して約2週間後から萌芽が回復し、その効果は約10日間持続する（図1）。
2. 回復した萌芽勢のピークは、処理が早いほど高くなる（図1）。
3. 10月19日にBA液剤散布をすることにより、11月の端境期の収穫延長が可能となる。（図1、図2）。
4. BA液剤処理翌年の春芽の収量は、10月19日処理＞9月20日処理＞10月4日処理の順に優れる（図3）。
5. BA液剤処理による収益性は、10-11月では、9月20日処理＞10月4日処理＞10月19日処理の順に優れ、翌年の春芽では、10月19日処理、9月20日処理が増収し、10-11月と翌年の春芽の合計では、9月20日処理＞10月19日処理＞10月4日処理の順に増収となる。（表1）。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 本試験は、供試品種ウェルカム、センター内の6m間口ビニールハウス、畝幅70cm、高さ30cmプラスチック枠成形床、株間25cm、1条植でおこなった。
2. 11月の収穫延長時は、無加温、サイドビニール開放して実施した。
3. ビーエー液剤の登録内容は、希釈倍数300～600倍、使用液量100～300L/10a、使用時期夏秋どり、慣行最終収穫予定日の10～30日前（但し、収穫前日まで）、使用方法茎葉散布、若茎にかかると奇形を生じることがあるので茎葉下部への散布は控える。
4. 本試験は、単年度成績である。

[具体的データ]

試験区の構成

- ① B A液剤 9月20日処理区 (ビーエー液剤600倍液100L/10a葉面散布)
- ② B A液剤 10月4日処理区 ( " )
- ③ B A液剤 10月19日処理区 ( " )
- ④ 無処理区

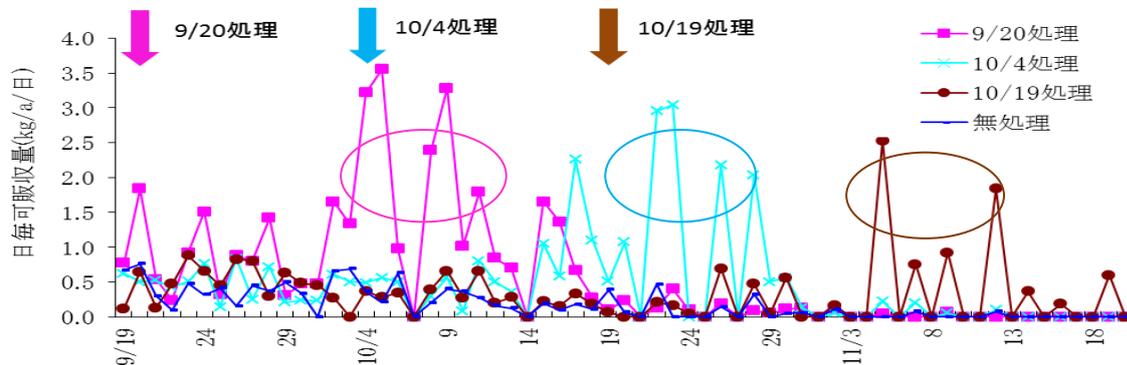


図1 B A液剤処理時期別日収量推移 (2012年9/19～11/20)

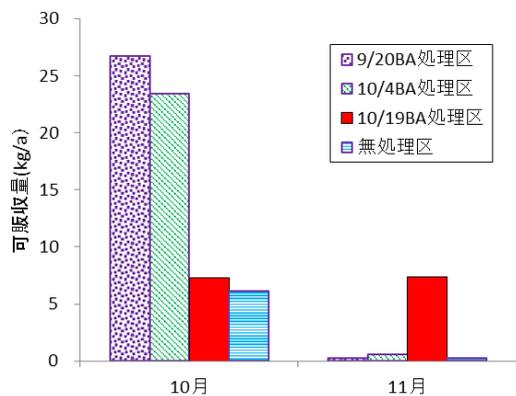


図2 B A液剤処理時期別収量 (2012年10～11月)

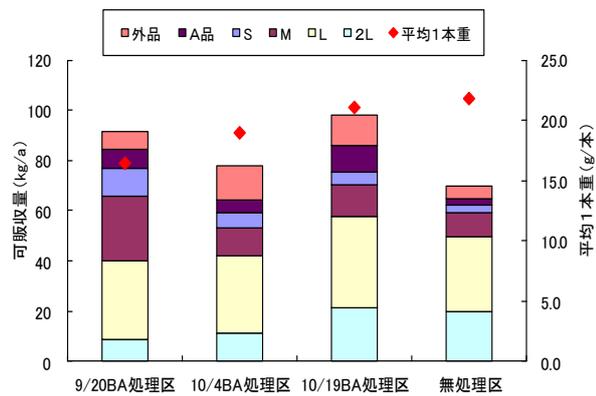


図3 BA液剤処理時期別収量 (2013年春芽)

表1 BA液剤処理時期が収益に及ぼす影響

	10-11月金額	春芽金額	合計金額	(円/a)
9/20BA処理区	28,435 (420)	112,504 (130)	140,939 (151)	対無処理区 <sup>2</sup> 収益差
10/4BA処理区	25,437 (376)	86,081 (100)	111,518 (120)	46,906
10/19BA処理区	16,275 (241)	116,064 (134)	132,339 (142)	17,485
無処理区	6,764 (100)	86,364 (100)	93,127 (100)	38,306

<sup>2</sup>: 試験区から無処理区を差引いた金額額から  
BA液剤使用経費(906円/a)を差引いた額

※2012年全農月別実績平均単価により、試算。ビーエー液剤 100cc 5,460円

[その他]

研究課題名: アスパラガス有望品種の栽培技術確立

予算区分: 県単

研究期間: 2009～2014 年度

研究担当者: 陣野信博